

【下條村立図書館 143号 2019年11月1日発行】

急に寒くなったせいか、風邪をひく人、体調を崩す人が多いようです。朝晩はめっきり寒くなり、駆け足で冬支度が始まりました。インフルエンザも例年より早く流行るとの情報も。冬を前に忙しく働く秋には、心を耕す時間も必要です。芸術や本との出会いを、図書館でぜひ！

## としよかん大好き家族 小木曾さんご一家

PART 117  
中原(三井屋)

今日は、小木曾家の元気な長女の央音(おと)ちゃん(4歳・年少組)、次女の有音(うい)ちゃん(10か月)、そしていつもにこにこ礼儀正しいお母さんの加奈さんが、保育園帰りに来館してくれました。

実は、お父さんの俊さんは、中学生時代図書館にきては仲間たちと青春時代を過ごした常連さん。元気で意志の強いところは、お父さんにそっくりな央音(おと)ちゃん…受け継がれるDNAを感じます。

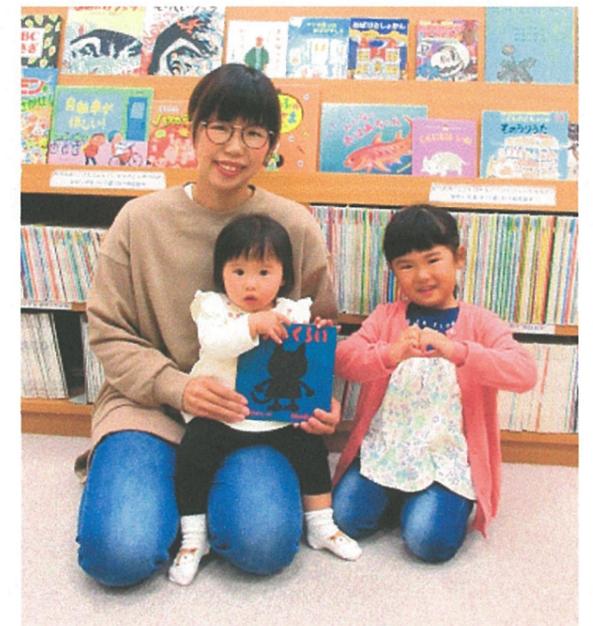
おすすめの本に『くらいくらい』を選んだ央音(おと)ちゃん。「大好きなんです。言葉の響きがいいのかな…長谷川摂子さんの絵本だから」と説明が入ります。

加奈さんは飯田市出身で、阿南町の保育士として働いています。幼いころ母親から読んでもらった絵本『ぐりとぐら』『かいじゅうたちのいるところ』『てぶくろ』などは印象深く、読んでもらったこと、大好きだったことをよく覚えているそうです。仕事柄、絵本や子どものことに少しずつ興味を持つてはいましたが「自分で子育てをしてみると、お母さん方の気持ちが実感としてわかるようになりました」と話す加奈さん。まだ未満児の頃、保育園から帰ってきた央音(おと)ちゃんが発する言葉に「ん？どっかで聞いたフレーズ…あの絵本かな？」と気づくと、うれしい会話が広がります。昼間は離れていても、絵本でつながれるって素敵です。

中原では、今ちょっとした子育てブームが起きています。幼い子どものいる家庭が4軒もあり、お母さん方は、「地域で、大切にされている」と感じているようです。「ご近所の方から、央音(おと)の出産祝いに福音館書店の『0.1.2 こどものとも』と『母の友』を半年分いただいたんです！そのなかの『とっとうれしいな』(0.1.2)という絵本が大好きで、2歳前ごろ覚えて自分でめぐりながら読んでる姿が本当にかわいくて！」と母の笑顔。「なかなか思うようにいかないし、

怒っちゃうし。でも絵本とわらべうたがあるから乗り切れます。有音(うい)には、これからたくさん読んであげたいです」と、自然体で話してくれました。

小木曾家の読み聞かせは、お父さんとお母さんが半々で受け持ちます。子どもたちには、幸せな時間ですね。



### もくじ

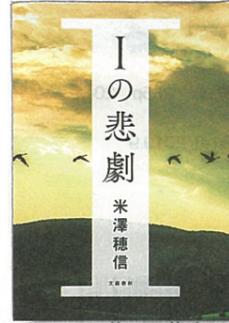
- 1p：図書館大好き家族
- 2p：読書月間のお知らせ
- 3p：『人魚姫』特集
- 4p：新刊ぴっくあっぶ



「祝祭と予感」 恩田陸著 幻冬舎／「蜂蜜と遠雷」のスピノフ短編小説。ピアコンケル審査員サニエルと三枝子の若き日の衝撃的な出会いとその後を描いた「獅子と芍薬」など、全6編を収録。\*Fオ



「人間」 又吉直樹著 毎日新聞出版／38歳の誕生日に届いたある衝動の報せ。何者かになるうとあがいた季節の果てで、かつての若者達を待ち受けていたものは？ 又吉直樹、初の長編小説。\*Fマ



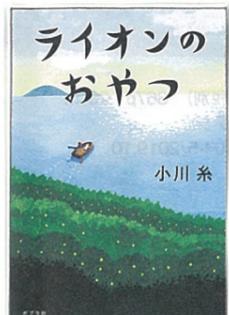
「Iの悲劇」 米澤穂信著 文藝春秋／市長肝いりのIターンプロジェクト。公務員たちが向き合ったのは一癖ある「移住者」たちと、彼らの間で次々と発生する「謎」だった。連作短編集。\*Fヨ



「先に亡くなる親といい関係を築くためのアドラー心理学」 岸見一郎著 文響社／介護者の負担はどうすれば軽減することが出来るのか？ 親の老いと病気の現実をありのままに受け容れ、尊敬と信頼に基づいた介護の方法をアドラー心理学を踏まえ、著者の介護経験を通して考察する。\*369キ



『助けて』が言えない SOSを出さない人に支援者は何ができるか 松本俊彦編 日本評論社／臨床現場で遭遇するであろう、様々な援助希求能力の乏しい人々や、それ故に支援者を悩ませ、苛立たせる人々をとりあげ、その理解や対応のヒントを示す。\*146ク



「ライオンのおやつ」 小川糸著 ポプラ社／若くして余命を告げられた雫は、残りの日々を瀬戸内海の島のホスピスで過ごすことを決めた。穏やかな景色の中、本当にしたかった事を考える雫。ホスピスでは毎週日曜日、入居者がツイエトできる「おやつ時間」があつて…。\*Fオ



「図解 異常気象のしくみと自然災害対策術」 ケリー・マッコール著 原書房／ちょっとした工夫と備え、知識があなたと家族の命を守る！ 自然災害大国アメリカの防災アドバイザーが、異常気象のしくみと災害の発生、そして災害から身を守るために役立つスキルを、イラストで分かり易く紹介する。\*363マ



「科学者の目」 かこさとし文と絵 童心社／優れた業績を残した科学者の〈目〉とは。絵本作家かこさとしが工学博士としての豊かな知識を生かして書き上げた科学者の伝記集。ニコラス・コペルニクス、木村栄ら、人類のあゆみに不滅の灯をともした41人を収録。\*児童書40カ



「最高のラジオ体操」 青山敏彦著 朝日新聞出版／ラジオ体操の本来の理念に沿った正しい動作を、DVDによるポイント解説動画を交えながらわかりやすく紹介する。ラジオ体操と組み合わせると効果的な足腰や瞬発力を鍛えるエクササイズも収録。\*781フ



「レシピに頼らず料理は割合でおぼえましょう」 石原洋子著 世界文化社／しょうゆ、みりん、酒、砂糖、酢、油…調味料の割合を覚えれば料理は簡単。味付けがひとりと決まるから、レシピ無しでも美味しく作れる。和洋中の定番料理79品の調味料の割合とレシピを紹介。\*596イ



「小児科医ママの「育児の不安」解決BOOK」 森戸やすみ著 内外出版社／薄毛ってなおるの？ 母乳に食べたものの味が出る？ 新生児はいつから外出OK？ ふたりの子どものままである小児科医が医学的文献を元に育児のウン・ホントを教えます。ママの気になる疑問や不安を解決するQ&A集。\*493チ



「初めての果樹の育て方 実をつけるコツがわかる」 ブティック社／ウメ、サクランボ、ブルーベリー、リンゴ…。果樹の栽培でとくに注意したいポイントや、データや栽培カレンダー、年間の作業とともに紹介。管理作業の順番を表記して、それぞれの方法や注意点なども写真とともに解説する。\*625ハ

11月16日(土)～12月15日(日)は読書月間です!

① あたらしいDVDの貸出スタート

DVDの貸出は順次少しずつ開始します

- 洋画「運び屋」「グリーンブック」「スリー・ビルボード」  
 「グレイテスト・ショーマン」「gifted」「オデッセイ」「ドリーム」  
 「ファンタスティックビーストと黒い魔法使いの誕生」  
 「パディントン2」「ピーターラビット」「怪盗グルーのミニオン大脱走」  
 「ショーシャンクの空に」  
 邦画「万引き家族」「日日是好日」「ナミヤ雑貨店の奇蹟」「聖の青春」  
 「君の膵臓を食べたい」「空飛ぶタイヤ」「終わった人」「教誨師(きょうかいし)」  
 アニメ「未来のミライ」「ムーミン谷とウィンターワンダーランド」  
 その他「ターシャ・チューダー静かな水の物語」「星野道夫のいた風景」  
 「吟選大落語名人会」「市原悦子の琉球昔ばなし」(4枚組)  
 「野菜づくりのコツと裏ワザ」全4巻(農文協)  
 第1巻:直売所農法コツのコツ編 第2巻:人気野菜 裏ワザ編  
 第3巻:挿し芽・わき芽でまる儲け編 第4巻:ねらいめ品目 得する栽培編

DVDの入荷は、あくまでも予定ですので変更の可能性もあります。

② 古本市スタート

廃棄本、ビデオ、雑誌のバックナンバー、小中学校図書館の廃棄本、寄贈本を土曜日ごとにまとめて出します。

- ◇ ご自宅にあるいらなくなった本など(状態のよいもの)がありましたら古本市にお出してください。
- ◇ 今回の古本市に出したい方は11月15日(金)までに図書館までお持ちください。

③ 雑誌の付録プレゼントの応募スタート

- ◇ 図書館で定期購入している雑誌(約50誌)のふろくをプレゼントします。
- ◇ 読書月間中に本を借りた人に、応募券を配ります。応募を受け付け後日抽選します。(バッグ、クリアファイル、ポストカード・ポスター等が当たるかも!)

◆ 福祉バスが図書館まで利用できます。読書月間中は、運転手さんに「図書館までお願いします!」と声をかけていただければ、図書館まで来てくれます。ぜひ、ご利用ください。

◆ 読書月間おすすめ本リスト&新リストを全戸配布します。この秋、新たな本との出会いをおたのしみに!

としょかんまつりの11月17日(日)の13:00～16:00は【本日開店!シネマカフェへようこそ!】を開催します。映画を観て、語り合いませんか?(もちろん観るだけでもOKです) ☆あなたのおすすめの映画、好きな映画も、おしえてください!

古本市

- 土曜日ごとに出します!
- 11月16日(土)雑誌① 廃棄本・ビデオ・寄贈本
  - 11月23日(土)雑誌② 学校廃棄本
  - 11月30日(土)雑誌③ 廃棄本・ビデオ
  - 12月7日(土)雑誌④ 廃棄本

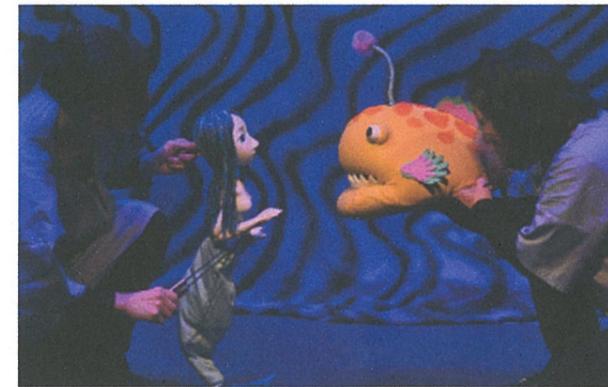


人形劇「人魚姫」が下條村にやってくる

人形劇「人魚姫」は、4年前、飯田下伊那に暮らす住民20人が、プロの演出家、美術家とともに1年半かけて制作した作品。飯田人形劇センターがプロデュースし、同センターが行っているワークショップの参加者によって作られた人形劇です。

2015年には飯田市での計6公演を満席に大好評を博し、同年10月には台湾にて上演。影絵やプロジェクションマッピングを駆使した幻想的な舞台は、海外でも好評を博しました。その後、参加者から再演のリクエストがあり、今夏4年ぶりの再演が実現しました。

人形劇「人魚姫」を観て～2019.8 飯田フェスタレポート～



飯田市人形劇フェスタの8月2日(金)、飯田人形劇場にて公演された市民人形劇「人魚姫」を観てきました。4年ぶりの再演となった今回、チケットは発売からほどなく完売となり、観たいけれど観られなかった人も多かったようです。

実は、4年前にも同じ会場でこの作品を観ました。当時、「市民の人形劇だから…」と思いながら軽い気持ちで観に行きましたが、終了後には感動の涙で胸がいっぱいになり「来てよかった、観てよかった!」と

心からの想いがあふれてきたのです。「これが市民の人形劇!?!」と…。

あれから4年、今夏に観たこの「人魚姫」は、まるで別作品に感じられるほど素晴らしい舞台になっていました!前方中央の一番いい席で観たことも幸運でした!(全席自由。入場、席取りはお早めに!)

＜人形劇「人魚姫」の特徴をいくつかあげると…＞

- ① 舞台劇のように、演じ手が見える「出遣い」の人形劇で、大きな舞台いっぱい演じ手と人形が動きまわり、リズムよく、美しく悲しいストーリーが繰り広げられます。
- ② さまざまな手法で作られた人形が使われており、美しさ、かわいらしさ、恐ろしさ、おもしろさ等の表現がリアルに伝わってきます。
- ③ 工夫を凝らした舞台美術や音楽がストーリーに深みを与え、大胆なプロジェクションマッピングで迫力あるシーンを盛り上げ、目が離せない展開になっています。
- ④ 高校生から60代までの一般市民(昼間は仕事・学生)が、夜集まり人形作りから上演までを手掛けています。
- ⑤ 指導者兼キャストとして、音楽的道化師「ましゅ&Kei」の2人や、舞台の専門家らとともに作った本格的な芸術作品です。
- ⑥ 演出家(くすのき燕さん)の奥深い世界観からくる、鮮明な演出が細部にいきわたり、魂のこもった表現に圧倒されます。

人形美術家吉澤亜由美さんからのメッセージ

下條村山一西にお住いの伊東亜由美さんが、人形・舞台の美術とデザインを担当しています。「人魚たちの顔は和紙で、腕は木彫りで、魔女はウレタンで…」等さまざまな効果を考え、キャストと一緒に工夫を重ね作りました。公演終了後には、近くで人形を見ていただけだと思います。作ることも自分もかなりおもしろいので、『何で作ったのか?』『どうやって作るのか?』など興味を持ったらどんどん聞いてほしいです。この公演を機に、そんな交流ができればとてもうれしいです。大勢の方に、特に親子で観てほしいと思います!

「人魚姫」は、誰もが知るアンデルセンの童話です。原作を読んでから観ると、作品を深く味わえます。